

武蔵野書院

中古文学会会員様向け特設サイト
2022年10月1日～10月31日

このサイトからのご注文に限り書籍を、
学会割引（税込み定価の2割引）＋送料無料
にてご注文いただけます

ご注文方法

1. **A** 書籍名をクリックする。**B** 書籍QRコードを読み取る。
C 最後のページの注文書で、FAXやメール等で注文する。
A～C のいずれかの方法でご注文ください。
2. **A・B** でご注文の際は中古文学会会員である旨を明記ください。

お支払方法

1. ご注文いただいた書籍をお送りする際に同梱する、郵便振込用紙にてお支払いください（振込手数料小社負担）。銀行振込でも承りますが、その際は振込手数料をご負担いただきます。
2. 公費注文の場合、宛名・日付の有無・納品 / 見積 / 請求書の枚数をお知らせください。

*****ご注文・お問い合わせ先*****
武蔵野書院

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町 3-11

TEL 03-3291-4859 FAX 03-3291-4839

e-mail : info@musashinoshoin.co.jp



最新刊

毛利 香奈子 著 **いはでしのぶ物語の研究**
—王朝物語文学の終焉—

『いはでしのぶ』という物語のなんたるかを問う

後嵯峨院時代に作られたとされるこの物語をはじめ、中世王朝物語は、『源氏物語』などの「模倣」として軽く扱われてしまうことが多い。この物語を精査し、「研究史」を問い、第一部では「見ること、似ること」のその双方の関係を捉えなおし、第二部では「手紙」という重要なアイテムから、物語の前半と後半での担う役割に注目し、第三部では「琴」と「笛」といった「楽器」や音楽からその背後にある皇統に触れ、第四部では物語の中心人物である「一品宮」について論じる。真正面から『いはでしのぶ物語』に挑んだ一書。



定価：本体10,000円＋税 判型：A5判上製カバー装 320頁
刊行日：2022年1月31日 ISBN：978-4-8386-0764-8



最新刊

伊藤 禎子 編著 **うつほ物語—国譲巻の世界**

『うつほ物語』「国譲」巻「らしさ」とは何か？

前半「本文鑑賞編」で、『うつほ物語』「国譲」巻を読むために読んでおきたい場面を紹介。場面の選定は「国譲」巻への繋がりを意識して、それぞれの場面には簡単なリード文を附し、読みやすくなるような現代語訳をつけた。また、各文の最後には『うつほ物語』読解のポイントを「鑑賞・説明」としてまとめたので、それぞれの場面を読む際の参考となろう。後半「論文編」では編著者をはじめ、ともに学んだ若手研究者の論文計七編を収録、日頃の研鑽の成果を公刊する。



定価：本体8,000円＋税 判型：A5判並製カバー装 298頁
刊行日：2021年11月24日 ISBN：978-4-8386-0763-1



最新刊

吉海直人 著 **源氏物語桐壺巻論**

源氏物語桐壺巻深読みのススメ

本書は、第一部 人物論Ⅰ（主要人物）・第二部 人物論Ⅱ（脇役）・第三部 表現論（特殊表現）の三部立てで構成される。源氏物語桐壺巻を立体的かつ深く読み進めることを企図した、著者三十年に亘る研究の成果である。



定価：本体3,000円＋税 判型：四六判並製カバー装 324頁
刊行日：2021年11月1日 ISBN：978-4-8386-0498-2



林田先生 畢生のお仕事を全四巻の著作集に集約！
 圧巻の計1388頁

林田孝和著作集

各巻定価：本体5,700円＋税 判型：A5判上製函入
 刊行日：2021年5月15日
 著者：林田孝和
 編者：竹内正彦・津島昭宏・太田敦子
 春日美穂・畠山大二郎



第一巻 源氏物語の発想
 360頁 ISBN：978-4-8386-0750-1



第二巻 源氏物語の精神史研究
 312頁 ISBN：978-4-8386-0751-8



第三巻 源氏物語の創意
 360頁 ISBN：978-4-8386-0752-5



第四巻 王朝文学の精神史研究
 356頁 ISBN：978-4-8386-0753-2



新刊

山下太郎 著

王朝日記物語の展開

—歌物語と日記物語—

新しい古典としての歌物語と日記物語

第一部には、歌物語に関連する四編の論を、また第二部には、日記物語を取り上げた十一編の論を収載した。検証作業に一貫するものは、読書の渉獵による諸説の丹念な吟味、定説への挑戦と妥協の排除である。『和泉式部日記』を中心に据え、著者21年間に亘る研究成果を一冊に凝縮した。



定価：本体11,000円＋税 判型：A5判上製カバー装 352頁
 刊行日：2021年7月26日 ISBN：978-4-8386-0756-3

廣田收先生 源氏物語研究三部作



廣田 收 著 表現としての源氏物語

平安京の物語の表現とは何か

つまり、平安京の物語とは、『源氏物語』をひとつの極とする一方、（互いに影響関係の希薄な）『宇治大納言物語』をもうひとつの極とするであろう。すなわち『枕草子』が興味を示し、記録している物語の中で、（『宇津保物語』や『住吉物語』などを除いて）群小物語がひとつの核をなすまでには至らないとすれば、平安京の物語とは、そのような二極を含む、緩やかな精円的な世界を意味するであろう。そのように考えることで本書において、ようやく説話としての『宇治拾遺物語』、『宇治大納言物語』をも対象とすることができる。つまり、本書は「表現としての源氏物語」と題しているが、内容からいうと、『竹取物語』『伊勢物語』『源氏物語』『宇治拾遺物語』を、かろうじて「平安京の物語」として捉えることが見通せるのではないかという目論見を隠している。



定価：14,000円＋税 判型：A5判上製カバー装 602頁
刊行日：2021年6月23日 ISBN：978-4-8386-0755-6

廣田 收 著 文学史としての源氏物語



紫式部という存在を睨み据えつつ…

わが国文学研究のめざすところは、日本的な精神や心性mentalityの解明だけではないし、逆に普遍的な元型archetypeの発見だけでもない。まさに『源氏物語』がどのような仕掛けや仕組みによって構築された本文であるかを明らかにすることを目的とする、と言挙げすればよいのではないか。

ひとこと言えば、紫式部という存在を睨み据えながら、古代の古代、古代の近代との併存する本文としての『源氏物語』を、基層と表層との重層性において捉えるという目論見である。



定価：本体11,000円＋税
判型：A5判上製カバー装 352頁
刊行日：2014年9月26日
ISBN：978-4-8386-0276-6

廣田 收 著 古代物語としての源氏物語



『源氏物語』を「古代文学として読む」という立場

「研究として『源氏物語』をどのように読むのか」というとき、こう読まなければならないという決まった読み方が最初からあるはずもないが、ただ単に恣意的な読みを披露し、散漫な感想を述べるだけでは『源氏物語』の研究としての読みに共感は得られないであろう。

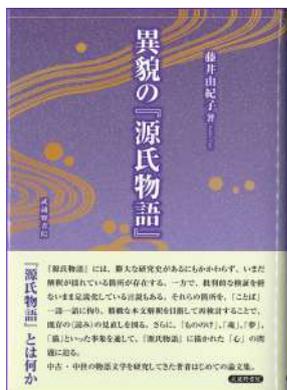
なぜならば、私的な読みに思わず知らず現代のもしくは近代的な基準による解釈が紛れ込む可能性があるからである。

『源氏物語』を「古代文学として読む」という立場である。



定価：本体11,000円＋税
判型：A5判上製カバー装 368頁
刊行日：2018年8月25日
ISBN：978-4-8386-0712-9

藤井由紀子 著 異貌の『源氏物語』



『源氏物語』とは何か

『源氏物語』には、膨大な研究史があるにもかかわらず、いまだ解釈が揺れている箇所が存在する。一方で、批判的な検証を経ないまま定説化している言説もある。それらの箇所を、「ことば」一語一語に拘り、精緻な本文解釈を目指して再検討することで、既存の〈読み〉の見直しを図る。さらに「もののけ」「魂」「夢」「猫」といった事象を通して、『源氏物語』に描かれた「心」の問題に迫る。

中古・中世の物語文学を研究してきた著者はじめての論文集。



定価：本体8,000円＋税 判型：A5判上製カバー装 284頁
刊行日：2021年5月10日 ISBN：978-4-8386-0749-5



武蔵野書院創業百周年記念出版

池田和臣 著 源氏物語生々流転 論考と資料

世界文学史の中でも、とりわけ早くに成立した傑作、『源氏物語』を成り立たせ得たものは何なのか。

仮名で物語を書くことには、どのような問題がはらまれていたのか。革新的多様な方法、深い認識と思想、個性的な人間造型等『源氏物語』の独自の世界形成はどのようにして獲得されたのか。紫式部が、自らに先立つ文学的伝統—仮名表記史あるいは文学史の状況—とどう向き合い格闘したのかを、様々な側面から考える。本書は、『源氏物語』が、仮名で書かれた物語としてどのように自己形成し、ことばの世界としてどのような思想を生成し表現したのか、そして、その本文がどのように流転し変容し、様々な享受形態—注釈・評論・秘伝など—を生み出し、文学・文化・政治の世界に根を張っていったのかということの探求、『源氏物語』の生成と世界と流伝の探求の痕跡である。

定価：本体16,000円＋税 判型：A5判上製カバー装 540頁
刊行日：2020年3月31日 ISBN：978-4-8386-0729-7



武田早苗 著 平安中期和歌文学攷

精妙な構造体としての平安中期和歌文学に迫る

第一部では『和泉式部日記』と『和泉式部集』を中心に、また第二部では歌集・日記から家集や物語まで、著者独自の考察を多角的に展開する。

定価：本体11,000円＋税 判型：A5判上製カバー装 408頁
刊行日：2019年12月15日 ISBN：978-4-8386-0725-9



武蔵野書院創業百周年記念論集

和田律子・福家俊幸 編 更級日記 上洛の記千年—東国からの視座

『更級日記』の作者、菅原孝標女が数えで13歳の寛仁4(1020)年に東国上総より京へ上洛してから令和2(2020)年でちょうど千年。『更級日記』は今まで「京」を中心に論究されることが暗黙の了解であったが、この機会に『更級日記』の書き出しである東国からの視座による論文集を企画。

本論集は文学研究者のみならず、歴史学の研究者、さらには上総市原で永年調査・分析を行う房総古代道研究会のみなさんにもご登壇いただくなど、実に多士済々な執筆陣が、専門領域を超えて多角的な視座で論ずる。

カバー絵は太田聴雨筆の『更級日記』、東国上総で薬師仏にひたすら祈る少女の姿が端正に描かれている。

定価：本体11,000円＋税 判型：A5判上製カバー装 438頁
刊行日：2020年7月20日 ISBN：978-4-8386-0731-0



高橋由記 著 **平安文学の人物と史的世界**
—随筆・私家集・物語— 並製版

平安文学に描かれた人物の実像や史的世界の
丹念な分析と可視化の試み

並製版にて重版

平安文学に描かれた貴紳・後宮・女房の実像を、漢文記録類・諸家集の読み解きから探る粘り強い試み。

『枕草子』や『栄花物語』が何を描き、何を描かなかったか、文学作品の特異な手法が見えて来る。

漢文日記や名家秘蔵の家集類が一斉に公開、刊行、施注されてきた近年の学界状況に柔軟、貪欲に挑み、これまで空白だった後宮空間の歴史が豊かに再現される。



定価：本体10,000円＋税 判型：A5判並製カバー装 438頁
刊行日：2021年3月31日 ISBN：978-4-8386-0747-1



斎藤菜穂子 著 **新装版 蜻蛉日記新考**
—兼家妻として「書く」ということ—

新装版。並製にて少部数作成

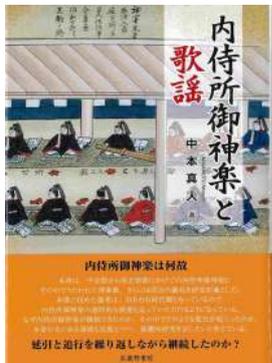
本書は、『蜻蛉日記』の作者道綱母が「兼家妻」として「書く」自意識に着眼し、その意味について一貫して論じてきた著者の第二論文集である。

兼家の「書かせる」というその意志は、道長（『源氏物語』）へ頼通（『更級日記』『四条宮下野集』等）へと受け継がれ、九条流撰閲の豊饒な文化世界を現出させた。その大きな画期として『蜻蛉日記』があったことを、本書は全編で語っている。

表題の「新考」にふさわしい、新鮮斬新な論集が刊行された。



定価：本体8,000円＋税 判型：A5判並製カバー装 288頁
刊行日：2021年6月15日 ISBN：978-4-8386-0754-9



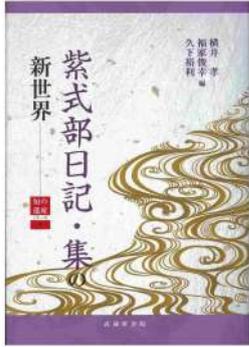
中本真人 著 **内侍所御神楽と歌謡**

内侍所御神楽は何故 延引と追行を繰り返しながら継続したのか？

本書は、平安朝から南北朝期にかけての内侍所御神楽と其中でうたわれた神楽歌、さらには周辺の儀礼を研究対象とした。本書に収めた論考は、おおむね時代順となっているので、内侍所御神楽の通時的な展開も追っていただけるようになっている。なぜ内侍所御神楽が継続できたのか、その中でどのような変化が起こったのか、本書の先にある課題も見据えつつ、基礎的研究を示したいと考えている。



定価：本体12,000円＋税 判型：A5判上製カバー装 312頁
刊行日：2020年12月25日 ISBN：978-4-8386-0739-6



横井 孝・福家俊幸・久下裕利 編
知の遺産シリーズ⑦ 紫式部日記・集の新世界

- 横井 孝 文学史上の『紫式部日記』『紫式部集』
 上原作和 紫式部の生涯—『紫式部日記』『紫式部集』との関わりにおいて—
 笹川博司 『紫式部日記』『紫式部集』の成立
 —古本系集に増補された「日記哥」から考える—
 山本淳子 現行『紫式部日記』の形態
 —冒頭・消息体・十一日の暁、『枕草子』にも触れつつ—
 福家俊幸 敦成親王誕生記としての『紫式部日記』—『栄花物語』との関連から—
 廣田 收 『紫式部日記』『紫式部集』の中の紫式部
 —中宮彰子サロンの中の紫式部—
 福家俊幸 『紫式部日記』『紫式部集』の中の女房たち
 久下裕利 『紫式部日記』寛弘六年の記事欠落問題
 末松 剛 『紫式部日記』の儀礼・服飾・室礼
 川名淳子 『紫式部日記絵巻』の視点—描かれた〈紫式部〉像—
 上野英子 『紫式部日記』『紫式部集』
 —研究の現在と展望—付、主要文献目録（二〇〇〇年～二〇一八年）

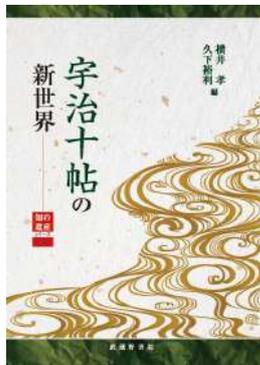
定価：本体3,000円＋税 判型：四六判上製カバー装 280頁
 刊行日：2020年5月15日 ISBN：978-4-8386-0489-0



後藤康文・倉田 実・久下裕利 編
知の遺産シリーズ⑥ 狭衣物語の新世界

- 後藤 康文 文学史上の狭衣物語—“衞学”の美学—
 久下 裕利 『狭衣物語』の成立とその作者
 今井 久代 『狭衣物語』の異文と改変
 倉田 実 『狭衣物語』と『源氏物語』—その時代相を中心として—
 井上 新子 『狭衣物語』と六条齋院物語歌合
 萩野 敦子 狭衣と源氏宮—その形代となる宮の姫君まで
 倉田 実 狭衣と女二宮—その即位まで
 野村 倫子 狭衣と飛鳥井君—その娘の行方まで
 井上 真弓 『狭衣物語』の人脈と空間
 —二人の姫を巡る人脈と堀川邸西の対という空間—
 鈴木 泰恵 『狭衣物語』の超常現象—天稚御子降下と天照御神託宣—
 後藤 康文 『狭衣物語』の引歌・歌ことば—作中歌の形成と受容をめぐる—
 久下 裕利 『狭衣物語』の古筆切
 川崎 佐知子 『狭衣物語』の注釈書
 有馬 義貴 『狭衣物語』—研究の現在と展望—付、二〇〇〇年以降の研究文献目録

定価：本体3,000円＋税 判型：四六判上製カバー装 274頁
 刊行日：2019年2月25日 ISBN：978-4-8386-0483-8



横井 孝・久下裕利 編
知の遺産シリーズ⑤ 宇治十帖の新世界

- 倉田 実 文学史上の宇治十帖
 宇治十帖と作者・紫式部—「出家作法」揺籃期の精神史—
 後篇の物語の構造
 有馬義貴 薫の宿世と恋—大君の反論をめぐる—
 横井 孝 八の宮の遺言と大君の進退
 井野葉子 中の君と匂宮との結婚—立坊・「幸ひ人」・腹帯・歌ことば—
 久下裕利 浮舟設定と入水前後
 浅尾広良 按察大納言の羨望—繰り返される〈按察使大納言〉—
 廣田 收 式部卿宮の姫君の出仕
 新聞一美 宇治十帖と漢詩文世界
 久下裕利 宇治十帖と国宝『源氏物語絵巻』
 咲本英恵 宇治十帖のその後—『雲隠六帖』の世界
 今井久代 宇治十帖—研究の現在と展望—付、主要文献目録（二〇〇六年以降）

定価：本体3,000円＋税 判型：四六判上製カバー装 328頁
 刊行日：2018年3月16日 ISBN：978-4-8386-0477-7



深沢 徹 著

日本古典文学は、如何にして〈古典〉たりうるか？ —リベラル・アーツの可能性に向けて—

「古典」とは何かについての根源的な問いかけ

「古典」は「古典」として既にあるのではない。それを「古典」として維持し、継承していく人びとの、たゆみない努力なくして「古典」は「古典」たりえない。この自明の事柄を、いわゆる〈リベラル・アーツ〉の営みとの関連で明らかにしていきたい。



定価：本体3,000円＋税 判型：四六判並製カバー装 276頁
刊行日：2021年4月23日 ISBN：978-4-8386-0493-7



最新刊

深沢 徹 著

「この国のかたち」を求めて —リベラル・主権・言語—

「この国のかたち」は如何にあるべきか？

ロシアによるウクライナ侵攻という事態が出来て、これはどうしても、いま「本」にしておかねばならないとのやむにやまれぬ思いにかられ、既発表のいくつかの文章を再構成するかたちで、急遽、本書を出版することとした。—本書「あとがき」に代えて—



定価：本体2,000円＋税 判型：四六判並製カバー装 206頁
刊行日：2022年5月21日 ISBN：978-4-8386-0500-2



武蔵野書院創業百周年記念企画

東原伸明・山下太郎 編著

大和物語の達成—「歌物語」の脱構築と散文叙述の再評価

大和物語の再評価

大和物語は従来、伊勢物語と共に「歌物語」というジャンルで一括されてきた。しかし、その括りで一括することが、果たして適正であったか。脱構築し、「歌」じたいの位相を見極め、「散文」への方法性を模索することなど再検討の時機に来ている。本書は、大和物語のじたいの達成を見極め、再評価することを希求する。



定価：本体3,000円＋税 判型：四六判上製カバー装 400頁
刊行日：2020年5月20日 ISBN：978-4-8386-0490-6



新刊

武蔵野書院創業百周年記念出版

檜垣 孝 著 **長秋詠藻全評釈 上巻** (全三巻)

本『長秋詠藻全評釈』上中下三巻は、いわゆる第二類本『長秋詠藻』のうち俊成自撰部分四八〇首の全評釈を試みたものであり、本上巻は、いわゆる「久安百首」と「述懐百首」の評釈である。「久安百首」については、先に上梓した『俊成久安百首評釈』を利用し、内容には適宜修正加筆を心がけ、注記を本文に繰り入れるよう変更した。なお、「久安百首」は俊成詠の百首歌、『久安百首』は崇徳院主催の百首歌という意味で、括弧の表記を書き分けて示した。「述懐百首」については、その歌題を百首百題形式の『堀河百首』に倣うが、ままた歌題が異なっている場合もある。歌題が『堀河百首』と異なる場合はその旨を記し、『長秋詠藻』の他の諸本等も参照する。『堀河百首』以前の『古今和歌六帖』『和漢朗詠集』『新撰朗詠集』に該当歌題があるかを調査し、題詠歌としての歌題という観点から、特に「述懐百首」成立以前の歌合作品の歌題についても検討することに務めた。

定価：本体14,500円＋税 判型：A5判上製貼函入仕様 544頁
刊行日：2021年8月19日 ISBN：978-4-8386-0758-7



高橋秀城 著 **法の水茎** —和歌とおはなしでひもとく仏教—

高尾なる緑もふかき法の山飯繩の御威永遠に変わらじ

いにしえの和歌や説話、古典文学には仏さまの教えがちりばめられている。また、その教えをもとに書かれた作品も少なくない。

本書はこれらの古典作品を手がかりとして、仏教の奥深い教えに近づくことを目的として書かれた、ひとつの道しるべ。

高尾山薬王院発行の『高尾山報』に、普濟寺住職である著者が、八年に亘って連載している『法の水茎』1～100話をこの一冊に収録。悩み多き現代人に贈る、言わば百話の心の処方箋。住職ならではの優しい語り口が、読者を仏の御心へと誘う。

定価：本体3,500円＋税 判型：A5判並製カバー装 452頁
刊行日：2021年3月11日 ISBN：978-4-8386-0492-0



中野方子 著 **三稜の玻璃**
—平安朝文学と漢詩文・仏典の影響研究—

安朝文学、漢文学、仏典が交叉し生み出す、複雑な光の饗宴

三稜の玻璃（プリズム）を透過した白色光は、七色の彩となって現れる。古のことも、三稜の玻璃を通して、これまでとは異なる始原の相貌をもって輝き出すのではないか。業平、貫之、友則、伊勢の和歌や、『伊勢物語』、『源氏物語』を中心とした平安朝文学と漢詩文、仏典という三面のジャンルが交叉し、交響し合う論文集。

定価：本体14,000円＋税 判型：A5判上製カバー装 460頁
刊行日：2021年3月10日 ISBN：978-4-8386-0745-7

日本語学会論文賞叢書 新たに誕生！



新刊

服部紀子 著

日本語学会論文賞叢書 1
「格」の日本語学史的な研究

—江戸期蘭文典と国学からの影響—

日本語学会論文賞叢書 第1弾！

江戸時代におけるオランダ語学史については、先人によって新たな視点での研究が始められている。しかしそのような中、オランダ語学を通して見出された日本語観、言い換えると、オランダ語との対照言語学的視点によって得られた日本語の見方については、考察すべき余地があるように思われる。特に、それまで日本では意識されることのなかった格は、オランダ語を通して意識されるようになった。江戸時代の蘭学者がオランダ語における格 (naamvallen) という概念をどのように理解し、またそれが日本語観にどう影響したのか。本書では、『六格前篇』と『和蘭語法解』の2冊の蘭文典を取り上げる。蘭文典から『語学新書』の格理解への過程を、近代文法学説に見られる格研究の前史として位置づけることが本研究の目的である。

定価：本体8,000円＋税 判型：A5判上製カバー装 192頁
刊行日：2021年9月17日 ISBN：978-4-8386-0759-4



最新刊

菊地恵太 著

日本語学会論文賞叢書 2
日本略字体史論考

日本語学会論文賞叢書 第2弾！

本書は、日本における略字体（規範とされる漢字字体に対して筆画が簡略になった漢字字体）を対象として、その使用状況にいかなる変化が生じていたかを明らかにし、漢字字体史の通史的記述を試みるものである。特に、従来明らかにされていなかった略字体の使用実態の歴史を把握し、非規範の世界における漢字字体史の一端を明らかにすることを目的として、文献調査と考察を進める。

定価：本体10,000円＋税 判型：A5判上製カバー装 288頁
刊行日：2022年1月31日 ISBN：978-4-8386-0766-2



最新刊

松倉昂平 著

日本語学会論文賞叢書 3
福井県嶺北方言のアクセント研究

日本語学会論文賞叢書 第3弾！

長く福井県嶺北地方はアクセント研究の空白地帯であり続け、本地方を含む福井県方言のアクセントを詳しく記述した文献（図書）は皆無に等しい。そのような状況にあって、本書は福井県方言のアクセントの詳細を明らかにする初めての本格的な研究書となる。

定価：本体11,000円＋税 判型：A5判上製カバー装 312頁
刊行日：2022年5月9日 ISBN：978-4-8386-0767-9



最新刊

今野真二 著

豊島与志雄『未来の天才』

—自筆原稿二種の影印・翻刻・解説—

二種類の自筆原稿が示すもの

豊島与志雄による「未来の天才」の「第二の自筆原稿」が見つかった。『人間』第三巻第七号に掲載された「未来の天才」のもととなった「流布本自筆原稿」をすでに所持していた著者はこれ入手。この二つの自筆原稿から豊島の何が読み取れるのか？本書ではその二種の影印を公開し、それぞれを翻刻した上で解説を加えることにより、著者独自の細かい観察の結果をここに提示する。



定価：本体9,500円＋税 判型：A5判上製カバー装 418頁
刊行日：2022年1月25日 ISBN：978-4-8386-0765-5



今野真二 著 テキストの変容—動態としてのテキスト

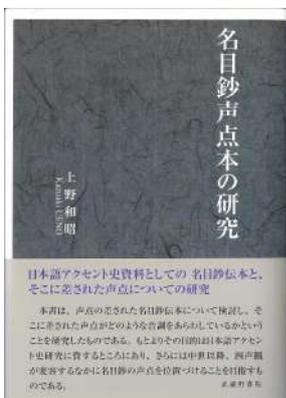
明治から昭和にかけて成立したテキストを共時的に観察する

言語化されていない「情報」が言語化というプロセスを経て、言語となりかたちをあらわす。言語単位でいえば、語をかたちづくり、語によって文をかたちづくり、文がまとまって文章、テキストとなる。

本書は、そのテキストが「書き手」やその他の事柄によってかたちを変えていくということについて、夏目漱石、岸田國士、島崎藤村、齋藤茂吉、森鷗外、江戸川乱歩にかかわるテキストを探りあげて、言語面から分析、考察を試みる。



定価：本体11,500円＋税 判型：A5判上製カバー装 516頁
刊行日：2021年5月7日 ISBN：978-4-8386-0748-8



新刊

上野和昭 著

名目鈔声点本の研究

日本語アクセント史資料としての 名目鈔伝本と、そこに差された声点についての研究

本書は、声点の差された名目鈔伝本について検討し、そこに差された声点がどのような音調をあらわしているのかということの研究したものである。もとよりその目的は日本語アクセント史研究に資するところであり、さらには中世以降、四声観が変容するなか名目鈔の声点を位置づけることを目指すものである。



定価：本体12,000円＋税 判型：A5判上製カバー装 432頁
刊行日：2021年10月8日 ISBN：978-4-8386-0760-0



最新刊 近代語学会 編 **近代語研究 第二十三集**

山田 潔、	坂詰 力治、	田和真紀子、	松井 利彦
肥爪 周二、	今野 真二、	小柳 智一、	平井 吾門
長崎 靖子、	田島 優、	小松 寿雄、	浅川 哲也
木村 一、	米田 達郎、	佐藤 貴裕、	丸田 博之
伊藤 博美、	園田 博文、	新野 直哉、	北澤 尚
真田 治子、	常盤 智子、	近藤明日子、	田中 牧郎
櫻井 豪人、	山田 里奈、	村上 謙	

の総勢27人の研究者による論文集

定価：本体15,300円＋税 判型：A5判上製函入 592頁
刊行日：2022年9月5日 ISBN：978-4-8386-0769-3

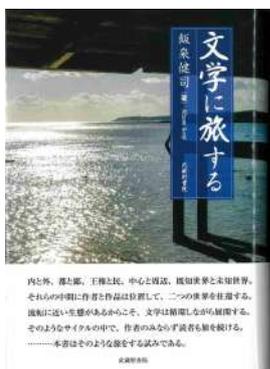


最新刊 飯泉健司 著 **古事記全講義—意図と文学**

自由気ままに『古事記』を読んでみませんか？

本書は、約20年の永きに亘って開催された古事記講読の記録を基に、それを85の章段に分け、さらに冗漫になることを避けるため、基本的に一章段を見開き4頁にまとめたものである。また、適所に詳細な系図や表を効果的に配置することによって、読解の便をはかった。

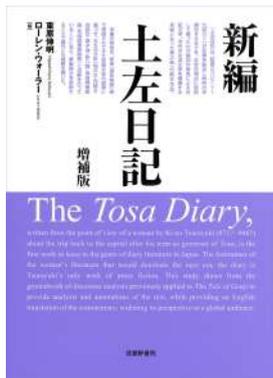
定価：本体2,500円＋税 判型：四六判並製カバー装 406頁
刊行日：2022年6月28日 ISBN：978-4-8386-1001-3



新刊 飯泉健司 著 **文学に旅する**

内と外、都と鄙、王権と民、中心と周辺、既知世界と未知世界。それらの中間に作者と作品は位置して、二つの世界を往還する。流転に近い生態があるからこそ、文学は循環しながら展開する。そのようなサイクルの中で、作者のみならず読者も旅を続ける。……本書はそのような旅をする試みである。

定価：本体5,000円＋税 判型：四六判上製カバー装 378頁
刊行日：2021年7月26日 ISBN：978-4-8386-0495-1



東原伸明・ローレン ウォラー 編
新編 土左日記 増補版

『土左日記』は、紀貫之（871?~946?）が任国を船出し呻吟の末帰京するまでを、女性の視点に仮託して綴ったわが国初の仮名による日記文学。次代の女流文学を領導する先駆となった貫之唯一の散文作品。

本書の特色は、従来『源氏物語』等で実践されてきた言説分析の成果に基づき、本文の分析（地の文・内話文・会話文・草子地・移り詞・自由間接言説・自由直接言説等）と注解を行っていることにあり、解説部分を英訳することで国外にも視野を開いた。

増補版として、参考文献を一部修正するとともに、大幅に増補した。



定価：本体1,500円＋税 判型：A5判並製カバー装 144頁
刊行日：2020年9月25日 ISBN：978-4-8386-0656-6



田村由美子 著 日本文学の原風景

いにしへの史跡を旅し
日本の風土に深く根差した
古典文学の原風景を逍遙する

「旅」で訪れた現地の風景に、日本の古典文学作品の原風景を発見する。さらに著者の古典学習の原点である『源氏物語』についての気づきを独自の切り口と多様な視点から探究する。くわえて、これら古典文学の背景にある日本独特の文化を、アメリカ人に紹介した文化交流の実践記録としてまとめた。



定価：本体3,000円＋税 判型：A5判並製カバー装 364頁
刊行日：2020年11月22日 ISBN：978-4-8386-0491-3

第31回高知出版学術賞 受賞

井上次夫・高木史人・東原伸明・山下太郎 編

次世代に伝えたい新しい古典

—「令和」の言語文化の享受と継承に向けて—

上代文学の「古事記」から近代文学「土」までの日本文学に、国語教育、日本文化に「令和」の視点からいま、新しい光を当てる。

I「古典文学」では、一六の論考と古典漢文の視点による一つの論考の計一七の論考で、II「国語教育」は日本の学校教育における四つの論考で、III「日本文化」は、新しい古典が成立する基盤ともなる日本の社会に根付いている文化という視点による三つの論考で構成しました。これらの論は、全く初めての「新たな発見（新発見）」とは限らないが、「改めての発見（再発見・再認識）」となるだろう。本書を通じてこれまで知らなかった、気づかなかった新たな古典の世界に興味・関心・問題意識を持ち、古典文学を手にとってもらう。そのことが古典なるものを古典たるものとして次世代に受け継いでいく契機になる。

定価：本体2,000円＋税 判型：A5判並製カバー装 272頁
刊行日：2020年3月10日 ISBN：978-4-8386-0655-9





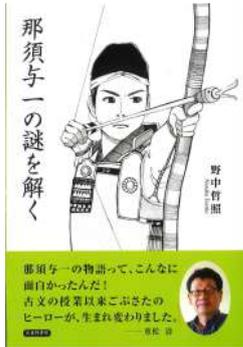
新刊 芝波田 好弘 著 **方丈記試論**

『方丈記』研究史上に新局面を拓く試論を提起する

『方丈記』は作者名の問題も含め、未だに解釈・理解の相違を多々抱える難物である。本書はその難物の魅力に取り憑かれた著者が、作者試論・諸本と本文の分析・序章と五大災害の記述についての試論など、さまざまな角度から『方丈記』を分析し、検証に次ぐ検証を重ねた雄編である。



定価：本体14,500円＋税 判型：A5判上製カバー装 652頁
刊行日：2021年8月4日 ISBN：978-4-8386-0757-0



最新刊 野中哲照 著 **那須与一の謎を解く**

平家物語でも有名な「扇の的」の名場面。その場面の主役那須与一の名前は知っていても、那須与一がどんな人物か、実は良く知られていない。そんな那須与一の謎を探る。

内容的には学術書ですが、これを一般の方々や学生さんにも読んでいただけるよう、90枚近くの図版（写真、イラスト、地図、図解など）を掲載しました。



定価：本体2,000円＋税 判型：A5判並製カバー装 322頁
刊行日：2022年5月27日 ISBN：978-4-8386-0499-9



最新刊 小井土 守敏 編 **曾我物語 流布本**

敵討ちのために綺羅星のごとく駆け抜けた兄弟の物語

幼くして父を失った兄弟が、18年間の苦節の末にその敵討ちを遂げた顛末を描く『曾我物語』。先人に最も広く読まれた流布本を底本とし、すべての所載挿絵とともに、読みやすい校訂本文にしてここに復活。人物相関図・年表・地図等の資料も充実。



定価：本体2,300円＋税 判型：A5変形判並製カバー装 496頁
刊行日：2022年9月30日 ISBN：978-4-8386-0658-0



山田利博 著 文学としてのマンガ

平安文学の専門家が、
裏専門のマンガ・アニメを語る！

文学とはなにか。それは「作者」が「想像力」により「虚構の世界を作り」「思想」や「感情」を表現したものではないのか。絵であらわされているか、文字であらわされているかはさほど問題ではない。その証拠に、マンガは特に古典文学に通ずる部分がある。『セーラーMoon』は『竹取物語』、『魔法少女もの』や『CITY HUNTER』などには「異界」の面影がある。古典と称される文学が有形無形に今に影響を与え、マンガやアニメに奥行を与えてゆく。マンガを読もう。あわせて古典などの文学も読もう。それがどちらもさらに面白く読むコツだといえよう。著者が時間をかけて楽しんだ結果を皆様にも。

定価：本体2,000円＋税 判型：四六判並製カバー装 248頁
刊行日：2020年3月26日 ISBN：978-4-8386-0488-3



京都と文学研究会 編 ものがたりたちの京都 京都文学入門

人間と地域の関係が問い直されている今——専門的知見から、京都文学、ひろくは、地域文学を読むことの価値を解き明かす！

“記紀万葉”から、“けいおん”にいたるまで、ものがたりたちはどのような「京都」を描き出しているのか——

定価：本体1,500円＋税 判型：四六判並製カバー装 228頁
刊行日：2019年10月12日 ISBN：978-4-8386-0484-5



新刊 桐山智子 著 タカラヅカ 百年の芸名

百年を超えるタカラヅカを彩ってきた「芸名」を
多角的に考察する！

著者が、長年興味をもち続けてきた「人名」、古くは大正時代から「タカラヅカ」の舞台で活躍してきた数多の「タカラジェンヌ」、そしてその華やかな「芸名」を1期生から100期生までの全4426人の芸名のデータベースを作成し、時代ごとにその傾向を掴む。

大正期の百人一首に由来する芸名は、掛詞や縁語、文字遊びなど言語遊戯的な要素を多分に活用し、昭和期以降の芸名も、一般の命名ではない姓をつくり、名と組み合わせる考案するところに、音と文字の使い方の妙味が表れる命名法だった。

その分析から導き出された各時期の特徴は、「男役の芸名」や「キラキラネーム」などのトピックを立て考察を加える。

定価：本体3,500円＋税 判型：A5判並製カバー装 332頁
刊行日：2021年10月14日 ISBN：978-4-8386-0497-5

注文書 Fax 03-3291-4839

Mail : info@musashinosho.in.co.jp

この注文書でご注文いただければ、学会割引（税込定価の2割引+送料無料）を適用させていただきます（2022年10月31日まで）

書籍名	価格	部数	公費・私費
いはでしのぶ物語の研究—王朝物語文学の終焉—	本体： 10,000円+税	部	公費・私費
うつほ物語—国譲巻の世界	本体： 8,000円+税	部	公費・私費
源氏物語桐壺巻論	本体： 3,000円+税	部	公費・私費
林田孝和著作集 第一巻 源氏物語の発想	本体： 5,700円+税	部	公費・私費
林田孝和著作集 第二巻 源氏物語の精神史研究	本体： 5,700円+税	部	公費・私費
林田孝和著作集 第三巻 源氏物語の創意	本体： 5,700円+税	部	公費・私費
林田孝和著作集 第四巻 王朝文学の精神史研究	本体： 5,700円+税	部	公費・私費
王朝日記物語の展開—歌物語と日記物語—	本体： 11,000円+税	部	公費・私費
表現としての源氏物語	本体： 14,000円+税	部	公費・私費
文学史としての源氏物語	本体： 11,000円+税	部	公費・私費
古代物語としての源氏物語	本体： 11,000円+税	部	公費・私費
異貌の『源氏物語』	本体： 8,000円+税	部	公費・私費
源氏物語生々流転 論考と資料	本体： 16,000円+税	部	公費・私費
平安中期和歌文学攷	本体： 11,000円+税	部	公費・私費
更級日記 上洛の記千年—東国からの視座	本体： 11,000円+税	部	公費・私費
平安文学の人物と史的世界—随筆・私家集・物語— 並製版	本体： 10,000円+税	部	公費・私費
新装版 蜻蛉日記新考—兼家妻として「書く」ということ—	本体： 8,000円+税	部	公費・私費
内侍所御神楽と歌謡	本体： 12,000円+税	部	公費・私費
知の遺産シリーズ⑤ 宇治十帖の新世界	本体： 3,000円+税	部	公費・私費
知の遺産シリーズ⑥ 狭衣物語の新世界	本体： 3,000円+税	部	公費・私費
知の遺産シリーズ⑦ 紫式部日記・集の新世界	本体： 3,000円+税	部	公費・私費
日本古典文学は、如何にして(古典)たりうるか?—リベラル・アーツの可能性に向けて—	本体： 3,000円+税	部	公費・私費
「この国のかたち」を求めて—リベラル・主権・言語—	本体： 2,000円+税	部	公費・私費
大和物語の達成—「歌物語」の脱構築と散文叙述の再評価	本体： 3,000円+税	部	公費・私費
長秋詠藻全評釈 上巻	本体： 14,500円+税	部	公費・私費
法の水荃—和歌とおはなしでひもとく仏教—	本体： 3,500円+税	部	公費・私費
三稜の玻璃—平安朝文学と漢詩文・仏典の影響研究—	本体： 14,000円+税	部	公費・私費
「格」の日本語学史的的研究—江戸期蘭文典と国学からの影響—	本体： 8,000円+税	部	公費・私費
日本略字体史論考	本体： 10,000円+税	部	公費・私費
福井県嶺北方言のアクセント研究	本体： 11,000円+税	部	公費・私費
豊島与志雄『未来の天才』—自筆原稿二種の影印・翻刻・解説—	本体： 9,500円+税	部	公費・私費
テキストの変容—動態としてのテキスト	本体： 11,500円+税	部	公費・私費
名目鈔声点本の研究	本体： 12,000円+税	部	公費・私費
近代語研究第二十三集	本体： 15,300円+税	部	公費・私費
古事記全講義—意図と文学	本体： 2,500円+税	部	公費・私費
文学に旅する	本体： 5,000円+税	部	公費・私費
新編 土左日記 増補版	本体： 1,500円+税	部	公費・私費
日本文学の原風景	本体： 3,000円+税	部	公費・私費
次世代に伝えたい新しい古典—「令和」の言語文化の享受と継承にむけて	本体： 2,000円+税	部	公費・私費
方丈記試論	本体： 14,500円+税	部	公費・私費
那須与一の謎を解く	本体： 2,000円+税	部	公費・私費
曾我物語 流布本	本体： 2,300円+税	部	公費・私費
文学としてのマンガ	本体： 2,000円+税	部	公費・私費
ものがたりたちの京都 京都文学入門	本体： 1,500円+税	部	公費・私費
タカラヅカ 百年の芸名	本体： 3,500円+税	部	公費・私費
上記以外の書籍 []	本体： 円+税	部	公費・私費
上記以外の書籍 []	本体： 円+税	部	公費・私費
上記以外の書籍 []	本体： 円+税	部	公費・私費
上記以外の書籍 []	本体： 円+税	部	公費・私費
上記以外の書籍 []	本体： 円+税	部	公費・私費
上記以外の書籍 []	本体： 円+税	部	公費・私費
ご注文者			
公費の場合			
お名前	お電話番号	お宛名	
ご送付先〒		公費伝票類	
		日付有無 あり・なし	納品書 通
		見積書 通	請求書 通